



## 2019 日本冒険フォーラム開催

# テーマは挑戦(チャレンジ)

世界初の五大陸最高峰登頂や北極点犬ゾリ単独行など、厳しい自然と向き合いながらもその困難に挑戦し続けた植村直己さんの精神を語り、冒険文化を考える日本冒険フォーラムを植村さんの母校、明治大学で開催しました。

当日は全国各地から約800人が来場し、冒険を通じて「一回限りの人生」「限られた命」を輝かせることの大切さを考えました。

《問合せ》植村直己冒険館 ☎ 44-1515



▲コーディネーターの神長幹雄さんとゲストの市毛良枝さん

### 豊岡の挑戦

フォーラムのスタートは、今回のテーマ「挑戦(チャレンジ)」にちなみ、中具市長によるプレゼンテーション「豊岡の挑戦『Local&Global』」。かつて豊岡の空を舞っていたコウノトリの野生復帰、城崎国際アートセンターの設立や、近畿最古の芝居小屋出石永楽館の復原、豊岡固有の資源を生かした「観光と演劇によるまちづくり」について紹介。さらに担い手を育成する専門職大学設置のことなど、現在、豊岡市が挑戦し

ていることに触れ「小さな世界都市」を旗印に、さまざまな挑戦(チャレンジ)を実践していることをアピールしました。

### 基調講演とパネルディスカッション

続いて「人類を進化させた冒険の精神」と題して、京都大学総長でゴリラ研究の第一人者の山極壽一さんによる基調講演がありました。山極さんは植村直己冒険賞選考委員の一人で、人類が進化する過程と挑戦(チャレンジ)の関係性について講演しました。

その後のパネルディスカッション「挑戦し続けるところ」では、パラリンピック射撃選手たなかあきの田口亜希さん、日本人女性としてK2に初登頂し植村直己冒険賞を受賞、現在はシリア難民の取材を続けるフォトグラファーの小松由佳さん、作家で探検家の角幡唯介さん、そして山極さんも参加しました。それぞれの分野について、さまざまな挑戦(チャレンジ)を語りました。

### 閉幕のメッセージ

最後は植村直己冒険館オリジナル書籍「植村直己さんがイノチをかけてつかんだコトバ」でイラストを描いたイラストレーター黒田征太郎さんが登場。会場に向けて「皆さんの話を聞いて俺もチャレンジヤーやなと思いました。おおきに！」と元気なメッセージで幕を降ろしました。

本市は引き続き、あらゆる挑戦(チャレンジ)を応援し続けます。



▲パネルディスカッション



▲基調講演者の山極壽一さん

# 地域コミュニティの取組みを紹介します

## 将来を見据えた地域づくり

### 自分たちの足で地域の声を集めて回る（コミュニティだけの）

#### コミュニティだけの懇談会

コミュニティだけのでは、地域コミュニティ組織について知ってもらうこと、地域の声を今後のコミュニティの事業に反映させていくことを目的に「コミュニティだけの懇談会」を開催しています。

11月21日に開催した西町区での懇談会では「コミュニティの話聞き、自分たちで行動していかなければならないと感じた」「竹野地区が将来もずっと残っていくように、皆で考えて行動しよう。コミュニティをフル活用していこう」など竹野地区のこれからの見据えた意見が出ました。



▲懇談会の様子

#### 地域の声から始まったカフェ

6月にオープンした「やませみカフェ」は昨年度の懇談会で出た「年齢や立場の違う人々が顔を合わせる機会を作りたい」という声から始まった取組みです。多世代が交流できる場として月1回の開催日には多くの人でにぎわっています。

同会長の小高與志美こたかよしみさんは「懇談会を通して課題の可視化と意識づけの機会の大切さを感じた。地区の住人一人一人が当事者意識を持って地域課題に向き合い、行動に移せる地区を目指していきたい」と語りました。



▲やませみカフェ

### 危機感を持つ、でも将来像は明るく（コミュニティ三方）



▲会議の様子

#### みかたデザイン会議

コミュニティ三方では、将来にわたって地域を維持していくために農業・福祉・防災などテーマを決め、役員を中心に意見交換会「みかたデザイン会議」を開催しています。

#### 地域の将来を皆で考えるために

会議では「今後、少子高齢化、人口減少が予想以上に急激に進んでいく危機感を地区住民が共有する必要がある」という意見が出ました。これを受けて、11月3日に開催した「みかた祭り」で地区人口や小・中学校の児童数の推移をパネル展示したところ、住民からは「こんなにも子どもたちが減るのか」と驚きの声も聞かれました。

同会長の中西正博なかにしまさひろさんは「将来の地区の状況は厳しいが、暗いイメージは持っていない。豊かではなくても明るく、楽しい生活ができる地区をめざしていきたい」と前向きに将来像を語りました。

今後は、全戸アンケートを実施するなど、より多くの地域の声を聞きながら具体的な取組みを進めていきます。



▲展示されたパネル